

令和5年度全建賞 推薦調書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふりがな	ひろしましごうさいがいでんしょうかん
1. 事業(施策)の名称	広島市豪雨災害伝承館
2. 事業(施策)実施期間	令和3年12月6日 ~ 令和5年9月1日(開館日)
3. 事業費(工事費)	295 百万円
4. キーワード	災害、防災まちづくり、教訓伝承
5. 事業概要	<p>平成26年8月豪雨の被災地において、「この災害の記憶を教訓として次の世代に継承していきたい」という被災者の強い想いを受け止め、都市防災総合推進事業(防災・安全交付金)を活用し、災害時には指定緊急避難場所となる『広島市豪雨災害伝承館』を整備した事業。</p>

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(d)被災者の想いを尊重し、被災地に防災機能を併せ持つ「指定緊急避難場所」として整備	(a)施設運営を含めた住民参画によるプランの実現 (b)市からコンサルタントを派遣するなどし、プラン作成を支援
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)被災者による語り継ぎのための活動拠点の創出 (e)被災地の立地を活かしたデザインの採用	(a)自然災害から得られた教訓及び知識の伝承による防災まちづくりの推進

<p>7. 特にアピールしたい点</p> <p>「あのつらい思いを子や孫たち、そしてすべての人々に二度と経験してほしくない」「またもし次の災害が起きても犠牲者が一人も出てほしくない」という被災者の強い想いを受け止めたうえで整備した施設である。</p> <p>地元の被災者は、自らが施設運営を担うことを決意して一般社団法人を設立し、指定管理者として管理運営を行うとともに、語り継ぎのため活動拠点として、全国からの来館者をお迎えしている。</p> <p>都市防災総合推進事業(防災・安全交付金)を活用して整備し、災害時(洪水、高潮)には指定緊急避難場所となる。</p>
--

8. 事業を代表する写真及びキャプション

【広島市豪雨災害伝承館(外観)】

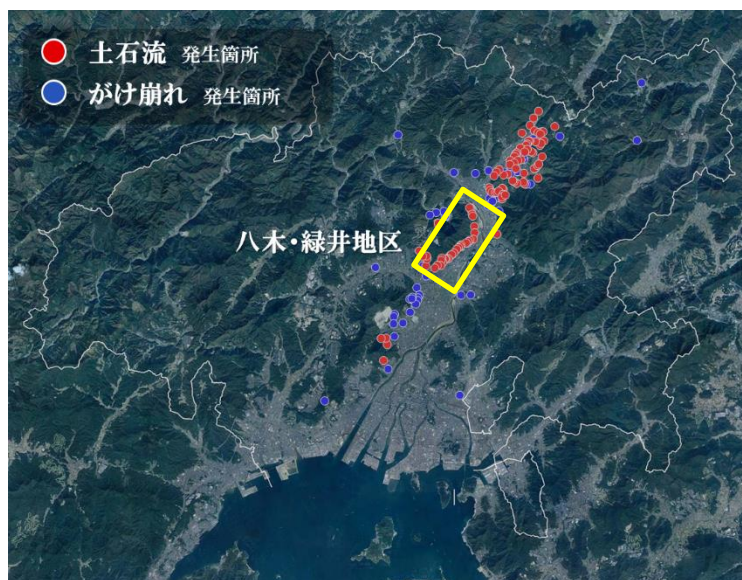


【広島市豪雨災害伝承館(展示スペース)】



9. 事業内容・添付資料

【位置図】



平成 26 年 8 月豪雨では、死者 77(災害関連死を含む)、住宅被害は 4,749 棟(全壊 179 棟、半壊 217 棟等を含む)の甚大な被害が発生した。

【被災当時の写真(八木三丁目)】



【梅林学区復興まちづくりプラン(冊子)】



国、県、市が連携し、平成 27 年 3 月に『復興まちづくりビジョン』を取りまとめた。ビジョンでは、行政の取組(公助)を明確にし、住民一人一人の自らの行動(自助)を基本とし、住民同士が協力する防災活動などの取組(共助)により、防災・減災まちづくりを進め、被災地域を災害に強い安全なまちによみがえらせるよう復興まちづくりに取り組むこととした。

この災害により住宅等に大きな被害を受け、復興まちづくりビジョン対象地域の一つである梅林学区では、町内会等が中心となり、身近な避難路、避難場所の検討やコミュニティ再生の場の確保など、安全確保のための自主的な活動が始まった。住民が何度も話し合いを重ね、災害に強く安全で安心していつまでも暮らすことのできる魅力あるまちの実現を目指して、平成 30 年 1 月に『梅林学区復興まちづくりプラン』を作成した。

この中で、「この災害の記憶を教訓として次の世代に継承していきたい」と拠点となる施設整備についての提案が盛り込まれ、当該施設の整備へとつながった。

9. 事業内容・添付資料

【広島市豪雨災害伝承館と八木第六公園】



平成 26 年 8 月豪雨から 9 年が経過した令和 5 年 9 月 1 日、「あのつらい思いを子や孫たち、そしてすべての人々に二度と経験してほしくない」「またもし次の災害が起きても犠牲者が一人も出てほしくない」という強い思いを受け止め、『広島市豪雨災害伝承館』が開館した。

施設は、地上 2 階建て、延べ床面積約 500 ㎡で、国の都市防災総合推進事業(防災・安全交付金)を活用し、災害時(洪水、高潮)には指定緊急避難場所となる。

また、別事業で整備した八木第六公園(約 4,000 ㎡)には、かまどベンチや防災東屋がある。

【広島市豪雨災害伝承館フロアガイド】



2 階展示エリアでは、同時多発的に発生した土石流、急激な速さで迫りくる土石流を再現した CG 映像や被災者のインタビュー映像を始め、被害の全容等のパネルを見学することができる。

最大 120 人収容の 1 階研修室では、様々な防災学習メニューを選択でき、屋外ではかまどベンチを活用した炊き出し訓練などの体験ができる。

そのほか近隣には、この災害を機に整備された砂防堰堤施設、被災当時のまま残っている住居跡や慰霊碑などがあり、現地に足を運び、見学することができる。

【被災者の語り継ぎ】



被災者の思いが結集されたこの施設は、被災者自らが施設運営を担うことを決意して一般社団法人を設立し、指定管理者として管理運営を行っている。

行政と住民が一体となってお互いが納得するまで粘り強く話し合いを進め、被災から 9 年目にようやく実現した『広島市豪雨災害伝承館』は、被災者の語り継ぎのための活動拠点として、全国からの来館者をお迎えしている。